



教育関係者・事業者部門
《地方公共団体》

農林水産大臣賞

佐伯市食育推進会議

(大分県) 活動期間 12年

九州最大の過疎のまちが挑む！ ～心の食育で人づくりと地域づくりを～

人づくりも地域づくりも食育から

まちをあげて全方位から食育を推進していくために「食のまちづくり条例」を制定。市域全域が過疎地域に指定されている九州最大の田舎町で、緑豊かで山海の幸に恵まれた地域の特色を見つめ直し、地域の強みである「食」を通じた人材育成と地域振興に取り組んでいます。



「さいき食のまちづくり」の
ロゴマーク



佐伯市食育推進会議

巣立つ君たちへの自炊塾

活動初期には、子供たちやその保護者世代を中心に啓発活動を行ってきましたが、高校や大学でその学びが途切れてしまうケースが多い事実と直面し、若者世代への実践活動を構築しました。進学や就学で町を離れてしまう若者をターゲットに、「巣立つ君たちへの自炊塾」を開催し、健康づくりや地産地消だけではなく、家族との絆や地域との繋がり、故郷を思う気持ちも育む、息の長い学びも根付かせてきました。



これから一人暮らしをはじめる高校生に料理の基本を伝授。故郷のぬくもりをお腹と脳裏に刻む。

市民全員で実践する食育

「食育は一部のマニアがやっているだけ」という市民からの声を受け、啓発事業（CATV番組の創設、ブログやホームページの更新等）を充実させています。また、自主的な食育活動への行政の支援がほしいとの声を受け、「さいき食のまちづくり推進活動補助金」の助成事業も創設しました。取組やイベントが一過性で終わらぬよう、身の丈に合った規模と予算で実践しています。



CATV
「佐伯ナチュラルFood(風土)
クッキング」収録風景



食育リーダー
研修会



今回は誠にありがとうございます。委員の誰かが退任しても、年老いてこの世を去っても、数百年たった後も、心の食育が永遠に続くことを願っています。今後も食育活動の人づくりや地域づくりに繋ぎ続けたいと思います。

佐伯市食育推進会議 委員一同



ボランティア部門
《食育推進ボランティア》

消費・安全局長賞

SKO48（佐伯・菌ちゃん野菜・応援団）

（大分県）活動期間 10年

菌ちゃんは世界を守るヒーローだ！ いのちが循環（めぐる）、笑顔の食農活動

食農実践で「菌」の存在意義を伝える

健康や環境を整える菌、農を支える土作りに不可欠な菌の存在を、循環を意識した食農実践から市民に体感してもらおうと活動しています。メンバーは、官・民の垣根を越え、地域で共生する「菌ちゃん仲間」として協働しています。



中心市街地でのワークショップで土作りを披露

多様な暮らしの中での食育実践

学校等だけでなく、市街地の家庭菜園やベランダ等で土づくり・野菜栽培が楽しめる「街ゼミ」等も行っていきます。身体の中の菌の働きを伝えるため、発酵食（味噌等）の普及イベント（「味噌サミット」・映画上映会等）の実施のほか、大豆の栽培体験も始め、若手メンバーが実施することで、若年層からの健康づくりや和食文化の継承にも寄与しています。



保育園での
手作り味噌仕込活動

視点を変えて活動を活性化

当初は、家庭ごみの削減に重点を置いていましたが、食農や循環の学びを取り入れ、新鮮な野菜を生む・増やすという視点から、活動を明るく親しみやすくしたことで、実践内容も深めることができるようになりました。



神出鬼没の「エコ仙人」も、さまざまなイベントに登場

活動内容は食育担当の「S」、環境担当の「K」、お楽しみ担当の「O」と位置づけ、楽しく実践する雰囲気を作り、チームのメンバーが楽しく笑顔で取り組んでいます。

B-1グランプリ
会場で「菌ちゃん野菜」作りをPRする児童たち



地道な活動への評価、心から感謝です。「菌ちゃんは世界を守るヒーローだ」。土に触れ、菌を学び、野菜づくりを体感した児童の言葉です。今後も食農活動を通じ、見えないもの(菌)に思いを馳せる心も育み続けます。

SKO48（佐伯・菌ちゃん野菜・応援団）
メンバー同